

■性格か、個性か、特性か

前学期で専攻である経済学の必修科目を取得し終えたため、残るは必要な一般教養と、卒業要件の単位数を満たすための授業を履修していきます。私は通常より1年早い3年間で卒業しようと、2年次以降からは他の学生よりも多く授業を履修してきました。そのため、何かの課題に常に追われている感覚だったのですが、その日々も今度の5月の卒業式を迎えればお別れだ！と思うとなんとか頑張れそうです。

極寒の地で知られるボストンですが、郊外の街に比べると実はあまり雪が降ることはありません。昨年は大雪による休校は全くなかったのですが、今年はなんと2回も休校になり、学生たちからは歓喜の声が多く上がりました。おまけに2度目の休校の際にはテストも一度延期になり、

その日は私の誕生日でもあったため、大学から思わぬバースデープレゼン

トをもらったような気分にもなりました。

おそらく日本と異なるところだと思いますが、中間試験や期末試験などの重要な試験前には、各教授がほぼ必ず、配慮が必要な生徒は事前に申請するように、と頻繁に呼びかけます。障がいを持つ学生向けのサービスを提供する部署に医師からの診断書などを提出して、教授とも事前に調整すれば、別室で受験できるといった配慮が受けられるそうです。

ただ、障がいなどを持つ学生向けのテストを配慮する仕組みは、申請のプロセスに時間がかかると聞きましただ。その他の事務手続きや書類の申請にも1週間から時には1カ月程度の時間を要することがあるので、この取り組みに限ったことではない、と言えるのかもしれませんが、ハン

ディキャップがある人の障壁を工夫して取り外せるような、せつかくの仕組みが活かされるためにも手続きがスムーズになるといいと、感じずにはいられません。

と言う人をよく見かけます。症状について正しい知識がないので、それがこだわりの強さなのか、それとも障がいの特性なのか、よくわからないため、返事に戸惑うような場面も多いです。

ある時は、床に散らばっていたシールを細かい法則性を持って整理していた友人に対して、別の友人が、「こだわりが強いんだね。もしかして自閉症？」と尋ねているところに

と捉えているように思うこともあります。「乙女座」という返事にもあったように、自分や相手に何らかの属性となる言葉をつけることが流行している、という面も否めません。ソーシャルメディアのプロフィール欄には、通っている大学名の他にも、自身のルーツの場所の国旗を載せたり、誕生日の星座を紹介している人は少なくありません。

私も課題をこなすために寝不足の時

には、よくコーヒーやエナジードリンクなどの高カフェインの飲み物に頼ることが多いのですが、ある時

「ADHDの人はカフェイン耐性が強いって聞いたことあるけど、もしかして持っているの？」と聞かれたこともありました。

ただ何かの障がいやハンディキャップを自然なものとして受け入れているという証でもあるのかもしれませんが、一人ひとりが求めることに寄り添う難しさを感じずにはいられません。

あまりにカジュアルに、障がいや特性について触れるアメリカ人の友人たちの姿にはいまだに戸惑いがあります。その人たちは偏見があるというよりも、むしろ強い個性ととらえ、そうした一面をカッコいい、

■グリークライフとは
グリークライフ（Greek Life）という言葉を、アメリカの大学を受験しているときに目にすることがあり

ました。西洋の教育の伝統として、つつきりギリシヤ文化やラテン語の古典を日常的に学ぶのかと思つていたこともあつたのですが、そうした格式深さとはどちらかというところと反対のものを指しています。

アメリカの大学では、フラタニティ (Fraternity) とソロリティ (Sorority) と呼ばれる団体のことをグリークライフと呼びます。フラタニティはラテン語で兄弟を表す「Frater」から、ソロリティは同じくラテン語で姉妹という意味の「soror」が由来とされ、フラタニティには基本的に男性のみ、ソロリティには女性のみが所属します。

そして、フラタニティとソロリティに該当する各団体の名前は、2、3文字程度のギリシヤ文字を組み合わせたもので付けられます。例えば、元大統領のブッシュ親子や、セオドア及びフランクリン・ルーズベルト元大統領といった、歴代大統領を輩出してきたフラタニティは、デルタ・カップ・エプシロン (ΔΚΕ) という名前になっていきます。グリークライフといわれるのも、こうした特徴的な団体名が付けられるからなので

こうした団体の主な目的は、学内に家族のような関係性を構築することです。これらの団体では入会すると、「ビッグブラザー」や「ビッグシスター」といった、兄や姉的な存在が一人ひとりの新メンバーにつきま

伴うパーティーを頻繁に開催している実態も多くあるからです。また、フラタニティやソロリティが普通の団体と大きく異なるのが「儀式」の存在です。入会する際には、外部に内容を漏らすことができない儀式が行われ、独自の握手の仕方や合図が交わされる秘密結社のような一面もあります。正式な会員になるために課題が与えられたり、新会員向けの伝統的教育プログラムが用意されることもあります。こうした儀式や課題が絆を生む、という考えがある一方で、秘匿性は現代社会において、いじめとみなされる行為につながることもあります。

から動画を撮影しあつていたので、外野から見ると一見雰囲気は悪くなかったのですが、嫌な思いをしていない人はいないとは限りません。また、このファンドレイザーは人目につく場所でしたが、外部が介入しにくい仕組みによって、度を越えたふざけ、いじり、いじめも明るみに出づらく、それが伝統の一部となつている場合には、所属している人たちは当然のこととして感覚が麻痺してしまうこともあります。時には大学側に通報が入ることもあり、実際に活動停止に追い込まれた団体もあるのですが、限られた少人数が入会する特性上、誰が通報したかなどの安易な犯人探しにつながりかねない可能性もあります。また、通過儀礼を乗り越えられないと入会できないという新入会員候補生とすでに入会している人たちの間には立場が同等とはいえない非対称性も存在しています。

大学によってはその団体で共同生活を過ごす家があり、自分のビッグブラザーやビッグシスター及びリトルブラザー、リトルシスター以外とも仲を深めていきます。卒業生ともコネクションを持つことができたり、先の元大統領たちのようにその後の政財界をはじめとしたいろんな人脈づくりにもつながる団体として伝統が続いてきたようです。

ただ、グリークライフに負の印象を持つ人も少なくありません。慈善活動を行うことも多いのですが、交流がメイン目的となり、飲酒などを

への進学を目指すなど、家族的なつながりよりも専門知識の共有や進路の相互援助を目的としたフラタニティやソロリティもあります。私自身も吹奏楽部のサポートをすること

を主目的としたソロリテイに昨春から入会しています。いつかは活動について書いてみたい、と思っていたのですが、少し慣れていろんな物事がわかってからと考えていたら、卒業間近になってしまいました。正式入会からあと少しで1年ですが、いまだに把握しきれていない部分もあり、次号で私の所属している団体についてでも触れさせていただけようと思っています。